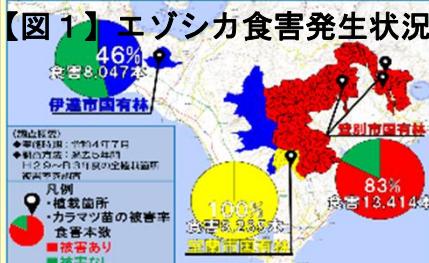


高足刈りによるエゾシカ被害緩和の検証

後志森林管理署 中澤 慧人
津田 孝則

研究の目的



伊達森林事務所ではエゾシカの食害により、カラマツ苗の形質不良や枯死する被害が多発しています。しかし主な対策であるワナ等による捕獲事業は、予算や人材、他事業との関係で実行できないこともあります。

そこで、特段の準備が不要であり、継続的にできる対策として、昨年に続き下刈を地際より苗木の高さで刈り払う『高足刈り』を採用し、その効果について1年目の結果と比較し、検証しました。

研究の内容



【試験地の設定】 【図2】

- 登別市来馬川2357林班よ小班 カラマツ4年生
- 下刈り作業において、『高足刈り』、『従来通りの下刈り』プロットを設定します。
- 各プロットに自動撮影カメラを設置し、画像を集計してエゾシカの撮影頻度を比較します。
- 各プロットから20本標本苗を選定し、定期的に標本苗を定点撮影し、苗木の食害率と成長率を比較します。

研究の成果

【図3】1年目と2年目の成果比較

作業種	年数	撮影頻度 (枚/日)	食害率 (%)	最終的平均高 (cm)	平均成長量 (cm)	平均成長率 (%)
高足刈り	一年目	1.03	70	36.65	+0.80	+2.20
	二年目	2.03	90	44.30	+1.05	+2.43
従来通り	一年目	2.23	95	36.15	-1.15	-3.10
	二年目	1.19	95	39.20	+1.10	+2.89

昨年と同様の試験方法でしたが、1年目と2年目を比較してみると全く異なる結果となりました。

撮影頻度については、1年目は高足刈りは普通刈りの半分でしたが、2年目では逆の結果でした。

また食害率や平均成長量、平均成長率については、1年目は高足刈りと従来通りの下刈りでは差が見られたものの、2年目はあまり差は見られませんでした。

今回の結果の要因としては、プロットを設定した小班内において草本類が少なかったことがあげられ、また地域全体的にアザミの量が少なくシカを阻害するものがなかったことも要因と想定されます。

しかし、撮影頻度が多いのにもかかわらず食害率や平均成長量などに有意差がなかったことから、高足刈りによって苗木ではなく他の草本類を食べていたと想定され、結果的に食害を軽減する効果があったものと考えられます。

今後の展開

高足刈りは、エゾシカによる苗木食害に対する完全な対策とは言えませんが、他の草本類を食べさせることにより苗木の食害を抑えることができたのではないかと考えられます。しかし、その土地の草本類の生え方や種類によっても有用具合が変化するため、今後も試験を継続し、効果的かつ効率的なエゾシカ対策の一つとなるよう開発・実証を推進します。

さらに、この結果を地域林政連絡会議などを通じて地域の方々へフィードバックし、林業関係者などと連携を図りながら、今後もエゾシカ食害対策に取り組んで行きたいと思います。

